薬用植物化学研究の新展開

オーガナイザー
淡川孝義（東大院薬）

近年の自然科学の技術革新は、多くの創薬研究分野に革新をもたらしている。ＤＮＡシーケンス技術の発展により、遺伝子資源が生合成研究の出発点となり、遺伝学、酵素学ツールの普及により、様々な生合成遺伝子や酵素が容易に取得されるようになり、その学術知見は加速度的に蓄積されている。

こうした背景をもとに、新時代の研究が次々と生み出され、天然物をはじめとする生体分子を基盤とする創薬が再び脚光を浴びつつある。

本シンポジウムでは、新規天然物の創出を志向し、開拓の余地が大きい植物化学をターゲットとし、その生合成、構造生物学、有機合成化学との融合研究を基盤とする創薬研究に切り込む５人の研究者を招いて、ご講演いただく。本分野の研究成果を幅広い薬学研究分野の研究者にご覧いただき、異分野融合研究の創発を促したい。ぜひ、幅広い分野の方々に足をお運びいただき、次の時代を切り開く最先端の天然物化学を基盤とする創薬研究について熱く議論したい。（淡川孝義）

変革の製薬産業

ーキャリア継続のために薬学出身者に必要な＋α

オーガナイザー
中込啓一（武蔵野大教養教育リサーチセ・武蔵野大薬）
尾鳥勝也（北里大薬・北里大メディカルセ）

再生医療、抗体医薬、遺伝子治療など変革著しい製薬産業では、科学をもとに医療従事者と情報共有できる人材が近年強く求められている。特殊な研究領域を除けば、医療感覚や医療従事者との連帯感を備えた６年制薬学出身者は適任である。しかし、新卒者の製薬産業指向は約１割程度という現実がある。

本シンポジウムでは、▽製薬産業での薬学出身者の活動領域の事例の紹介（シリンジキット開発、プロダクトマネージャー、グローバル事業統括）と新時代の薬学系人材のキャリア継続に必要な専門領域を超えた＋α▽ＭＲの将来ビジョン「患者志向に立った医薬情報の提供・収集活動を通じて、医療関係者から信頼されるパートナーを目指す」に基づく、これからの医療におけるＭＲの必要性・新ＭＲ認定制度と将来▽患者志向で薬物療法の最適化を支援する医師・薬剤師のパートナーとしての製薬産業とそこに勤務する薬剤師への期待を踏まえた、病院薬剤師と製薬産業との新しい関係――などについて活発な議論を行う。

製薬産業の将来、求める人材とキャリアの魅力を薬学生や大学教育関係者と共有したい。

（中込啓一）

ナノDDS技術が拓く新たながん免疫療法

オーガナイザー
中村孝司（北大院薬）
井上小枝（ナガセ医薬品）

免疫チェックポイント阻害剤の登場は、癌治療に革命をもたらしたが、その有効性は一部の患者に限定されている。それゆえ、他の治療法と組み合わせた複合癌免疫療法の開発が様々な戦略で進められている。そのような中、ナノテクノロジーを利用したdrug delivery system（ナノＤＤＳ）は、免疫機能性分子の機能最大化や複雑な癌免疫応答制御などに有用な技術として非常に注目されている。

本シンポジウムでは、癌免疫領域におけるナノＤＤＳ研究を推進する先生方にナノＤＤＳ技術を利用した癌免疫療法の開発やその未来像についての最先端の知見をご紹介いただく。また規制の観点から、癌治療に用いられる抗体医薬に関するご講演をいただくことで、ナノＤＤＳ技術を基盤とした癌免疫療法開発の基礎から実用化までの創薬を議論したいと考えて企画した。

（中村孝司）

眼疾患研究アップデート

ー新たな治療法の開発を目指して

オーガナイザー
中村信介（岐阜薬大）
坂本謙司（帝京大薬）

ウェブサイトやＳＮＳによる情報の収集・発信が普及した現代において、眼の重要性は広く認知されている。加えて、健康寿命の延伸により高齢者の視覚機能の維持・向上が求められている。しかし、最新の医療を駆使しても、視力低下、視野欠損、さらには失明に至る疾患が存在する。そのため、様々な眼疾患に対する早期診断技術の構築や新たな予防・治療法の確立に対するニーズがますます高まっている。

これらのニーズを充足させるためには、様々な分野の研究の融合が欠かせない。本シンポジウムでは、眼疾患の病態や治療法、さらには眼組織に対するドラッグ・デリバリー・システムに関する研究において、第一線で活躍されている先生方にご講演いただく。

最新の眼研究の知見をもとにブレイクスルーのキーポイントに触れ、眼科医療の今後の展望について議論したい。本シンポジウムが眼疾患の診断、予防、そして治療を進化させる革新的な創薬に貢献することを期待する。

（中村信介）

進化するがん征圧戦略：薬学的見地からがんを丸ごと捉える

オーガナイザー
津川仁（東海大医）
松崎潤太郎（慶應大薬）

癌はあらゆる疾患の中で最も死亡率の高い病気である。薬学領域は幅広い研究分野と職域を持ち、癌の征圧に向けて多彩かつ網羅的な研究を展開してきた。これらの癌研究により明らかにされたあらゆる情報の収集と共有は、基礎－臨床の一体化、産学の高次連携を導き、癌の診断や治療を確実に革新させ、癌を征圧するための進化したインパクトを創出するだろう。

本シンポジウムでは、薬学領域の癌研究によって得られた最新の情報を丸ごと統合整理し、癌の撲滅を共通項とした基礎－臨床の一体化や産学の高次連携から生まれる新たな学術領域の創生と新しい癌征圧戦略の実践に向けて、現在の課題と今後の研究展開のあり方を議論する。癌征圧を導く力強いインパクトを提供したい。

（津川仁）

次世代薬理研究者による創薬研究ブレイクスルーへの挑戦

オーガナイザー
田頭秀章（福岡大医）
古谷和春（徳島文理大薬）

研究分野の新陳代謝を促すため、既存の研究ミッションを再定義する、あるいは全く新しい研究カテゴリを創出するブレイクスルーが必要である。既成概念にとらわれない自由な発想と問題解決力、実行力、セレンディピティ、そして研究に全精力を賭ける熱意により、ブレイクスルーはもたらされる。

本シンポジウムでは、先進気鋭の研究者から、創薬に立ちはだかる壁を打ち破ろうとする、現在進行形の挑戦を紹介していただく。研究を主導した本人から、どのように新しい着想に至ったのか、従来の問題点を克服したのか具体的な研究成果の例と共に説明いただく。各講演者に提供いただく話題は、中枢神経系から末梢まで幅を持たせた。刺激的な最新の研究成果の共有と活発な意見交換を行うことで、研究分野の転換のトレンドをいち早く察知し、潜在的な課題の発見による新たなブレイクスルーのきっかけとなることを期待する。

（田頭秀章）

A5判/229頁/ 定価 3,300 円
（本体 3,000 円＋税 10%）

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する
倫理指針ハンドブック

これまで医学系研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（医学系指針）および「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（ゲノム指針）によって実施されてきました。この2つの指針には共通項目の内容に若干の相違があり、それを解消するため新たに『生命・医学系指針』が策定されました。（令和3年6月30日施行）

本書は、この**新たに統合された生命・医学系指針に関する資料等をコンパクトにまとめ**、実務はもちろん、資料集として教育・研修にも活用できる一冊です。

≪医学系指針およびゲノム指針からの主な変更点≫
■新たな用語の定義（研究協力機関、多機関共同研究など）
■多機関共同研究の審査の一本化（一研究一審査の原則）
■インフォームド・コンセント（IC）等の手続き見直し（IC の電子化）
…など

書籍の詳細・ご注文はURLまたはQRコードから薬事日報社オンラインショップへ ⇒ https://yakuji-shop.jp/

当ファイルの著作権は㈱薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル（印刷物含む）の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル（印刷物含む）を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。
株式会社薬事日報社　TEL:03-3862-2141　shinbun@yakuji.co.jp　http://www.yakuji.co.jp/